

第123回役員会・第53回経営審議会 議事要録

日 時：2020年11月27日(金)10：00～11：30

会 場：Teams による Web 会議

出席者：津田理事長、松尾副理事長、片山理事、柳井理事、龍理事、田上理事
井上委員、今川委員、小林委員、松永委員、竹島委員

(オブザーバー) 中野監事、福田監事、中尾副学長

議 案

- 1 北九州市立大学基金への寄附採納について
- 2 ICカード履修生証について

報 告

- 1 2020年度計画進捗状況について
- 2 次期学長について
- 3 学長業績評価について
- 4 北九州市立大学教職員の期末・勤勉手当等について
- 5 新型コロナウイルス感染症予防に配慮した本学対応方針について

議案1 北九州市立大学基金への寄附採納について

<質疑応答> なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 ICカード履修生証について

<質疑応答>

[委員]

○議案には異議なし。12月1日から施行ということだが、これまでは該当学生はどうしていたのか。

[事務局]

○数が限られていることもあり、手作りのパウチで運用していた。今回、コロナもあり、今後留学生の増加も見込まれ、また留学生も本学の学生なので、今回このような管理方法に変更したい。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 2020年度計画進捗状況について

<質疑応答>

[理事]

○内部質保証に関し、インデックスやベンチマークがあれば教えてほしい。どういったことに焦点を当てて、内部質保証を管理しているのか。

[副学長]

○本学は、教育・研究・社会貢献・管理運営の4分野を中期計画、年度計画に落とし込んで、必要項目について関係部局等がチェックし、特に数値目標を掲げている場合は数値に関して状況をみていくことになる。内部質保証で特に注意しているということに関しては、それぞれの分野を担当している副学長や事務局長が必要に応じて見ているということになる。

[理事]

○理解した。いずれにしても、それぞれの内容については、それぞれの分野の担当者がここまでいきたいが70%到達している等、判断しているということによろしいか。

[副学長]

○それぞれの判断した結果が、学長をトップとした「内部質保証推進室」でとりまとめられ、最終的には学長から指示等が行われる。

[副理事長]

○基本的に、内部質保証はP D C Aを回しており、各部局の方でそれぞれ今年度何をするかプランを立てる。そのプランは、中期計画で数値目標があれば、それを達成するような目標を立てる。前年度のチェックの段階で問題点があれば、各部局でそれを改善して今年度は実施していくという計画を立てる。それに対して実際にそういうD Oをしたか報告してもらい、大学全体というレベルで確認していく。現時点では、そういう手順を踏んでいるということになる。

[理事]

○理解した。本日の中期計画の進捗報告も内部質保証の一環だと思ったのでお尋ねした次第である。

報告2 次期学長について

<質疑応答> なし

報告3 学長業績評価について

<質疑応答> なし

報告4 北九州市立大学教職員の期末・勤勉手当等について

<質疑応答> なし

報告5 新型コロナウイルス感染症予防に配慮した本学対応方針について

<質疑応答>

[委員]

○大変な未曾有の中、全教職員一丸となって、とても細かい対策を講じていて大変素晴らしい。
1つ質問だが、遠隔授業が原則となっている状況で、大学に来たい、対面授業がないと仲間が作れない、通常の授業料負担がおかしい等の苦情がある中、やはり来年度以降も遠隔授業で原則いかなないといけなような状況である。来年度以降は、遠隔授業の質をあげていかなないと不満が出ると思う。遠隔授業のメリットもかなりあるのだが、なかには先生方が頑張っ課題を出しすぎて学生がパンクする、シラバスがあまり良くない、ということも聞いている。
北九州市立大学では、遠隔授業の質の向上や質の確保のために、組織的に講じていることがあれば教えていただきたい。

[理事]

○授業内容把握について、2つのツールを使用している。

1つ目は、授業アンケート（学生対象）である。学生に対して個別の授業評価だけではなく、大学全体の学生への教育サービス等も尋ね、それを吸い上げてコロナ対策や対面授業実施等に反映している。また、学生アンケートも実施し、対面授業と遠隔授業どちらを望むか等尋ねている。

2つ目は、授業実施アンケート（教員対象）である。15回の授業を、どういったツールや媒体で行い、課題をどれくらい出したか等、報告させ、逐次把握している。

双方のアンケートを突合せながら、良い授業の質保証をしていく、P D C Aを教育に関して回していくという方法で進めている。

[委員]

3点質問がある。1点目は、家計の急変によって経済的に苦しく修学支援制度等を利用している学生の状況を教えてほしい。そういった中で、2点目は、コロナ禍で退学者はどうか。3点目は、海外にいる留学生は現在どういった状況にあるのかを教えてほしい。

[事務局]

1点目は、国の高等教育無償化の修学支援制度利用者が647名（全学生の約10%）、大学独自修学支援制度（大学院生・留学生）現在20名、留学生の申請が後期なので200名前後になる見込み。貸与型奨学金は、昨年より利用者が若干増えて3300名（半数の学生が利用）、大学同窓会奨学金は10名、一人当たり10000円を支給した学修環境整備支援金は全学生にいきわたっている。7～9月に、アルバイト収入減の学生への国の支援（非課税世帯20万円／それ以外10万円）は1657名利用（全学生の1/4）。

国や北九州市から予算措置をいただいて、矢継ぎ早に経済的支援を行っている状況だ。

2点目の退学者についてであるが、毎年未納除籍で退学する学生が20～30名いる。今年度はコロナ対策の一環で1学期の未納除籍は実施せず、1年間納入を延長している。個別にヒアリングをすると、5、6名コロナの影響を受けている学生がいるようだ。2学期もコロナの影響で経済的に支援が必要な学生も出るかもしれないので、引き続き注視していく。

[事務局]

3点目は、非正規の交換留学生が2学期13名入国してくる予定で、正規の留学生が91名海外にいる。9月以降、27名が入国したが、まだ2/3海外にいる状況である。本学としては、門戸を開いており、査証を申請してもらって、出国前に14日間、入国して14日間の隔離の後、本学までの移動手段を報告してもらって、査証を受け取ったら本学に来るように対応を進めている。